

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870800145
法人名	社会福祉法人 愛美会
事業所名	グループホーム虹の里
所在地	愛媛県四国中央市上分町乙8番地73
自己評価作成日	平成 26 年 7 月 3 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 7 月 29 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・地域からは少し離れた山間部に立地している事業所ではあるが、複合施設の一角に隣接しているため、普段から同世代の人たちの交流が盛んにおこなえる。 ・緑豊かな場所に立地している事で、四季の移り変わりを感じ自然に触れる事ができる。 ・母体が協力医療機関であり、24時間緊急時の対応が可能であるため利用者やご家族の安心につながっている。 ・グループホームの共有スペースを利用し、認知症対応型通所事業を行なっている。この事業を通して外部との交流を保つ事ができ、利用対象者においても将来的に入所を考えたときスムーズな移行ができる。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>母体法人は長年地域の医療を支え、市内に系列の病院や介護老人福祉施設等があり、地域に浸透している。法人では、地域で認知症の講演会や相談会などを開催する「認知症プロジェクトチーム」を発足させ、地域に貢献している。事業所は山手の静かな環境に位置し、同じ建物にはケアハウスがあり、同敷地内には介護老人保健施設や介護老人福祉施設等を併設している。職員は一人ひとりの個性やペースに合わせた支援を心がけており、寄り添う時間を大切に、利用者は家庭的な雰囲気の中でゆったりと和やかに生活することができる。職員は地域貢献活動や研修会に参加するなど学ぶ機会が多く、スキルアップやサービスの質の向上に繋がっている。また、事業所では書道や茶道クラブを開催したり、年間行事や季節の花見などの外出も多彩で、利用者が楽しみを持って生活ができるよう支援している。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム虹の里

(ユニット名) _____

記入者(管理者)

氏名

森田 春美

評価完了日

26年7月3日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 「ゆっくり・楽しく・いっしょに」を運営理念とし、目の付く所に掲げ業務の指針としている。日々の生活が理念に通じているかを検討し、必要に応じては業務の見直しも行いながら、心穏やかに暮らせる環境づくりを提供している。</p> <p>(外部評価) 開設時に事業所の運営理念を作成している。管理者は入職時に理念を説明するほか、日頃から職員に理念に基づいた話を行い、職員間で理念を共有して、利用者一人ひとりの個性やペースに合わせた支援をしている。また、管理者は事業所の目標を作成し、来訪者から見やすい玄関に入って直ぐの場所に理念と一緒に掲示している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 法人が開催している行事祭などは、毎年多くの来場者があり、地域の方々のご協力を得ながら親睦と連携を深めている。また、様々なボランティアの受け入れにより事業所を知っていただく事ができているのではないかと思っている。迎えるばかりではなく、出向いていく活動もしているが、まだ十分ではないため今後の課題として取り組んでいきたい。</p> <p>(外部評価) 地域の小学校の運動会や公民館の行事に参加したり、近くの産直市などに出かけて地域住民と交流を深めている。事業所の夏祭りには学生やボランティアの参加協力がある。また、長年併設している施設などと一緒に法人全体で「愛美会まつり」を開催しており、利用者や家族、地域住民が参加して盛大に行われ、地域のイベントの一つとなっている。依頼を受けて婦人会や高齢者サロンなどに出向き、認知症の講演会や相談を行うこともあり、地域に貢献できるよう法人全体で取り組んでいる。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地元の教育機関の実習受け入れ、認知症徘徊模擬訓練への参加、認知症サポーター養成の協力等を行ない地域貢献に取り組んでいる。また、法人内で「認知症プロジェクトチーム」を発足し、認知症についての理解を深める講演会や地域サロンにも出向いて行き認知症の相談を受けている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) ご利用者の日常生活や行事内容をDVDにてわかりやすく紹介し、事業所の取り組みを理解していただいている。実情に即した議題を取り上げ、専門的な立場から様々な意見やアドバイスをいただきサービスに活かしている。今後、幅広い意見を求めるには構成委員の拡大にも努力していきたいと考えている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は家族、民生委員、市担当者、施設長等の参加を得て開催している。会議では事業所の取り組みや利用者の様子などを映像を見てもらいながら報告し、参加者と意見交換を行い、サービス向上に活かしている。以前は会議を別階の部屋で開催していたが、参加者に事業所の様子が分かりやすいよう事業所内のリビングで開催する工夫をしている。会議録は家族等も閲覧でき、職員全員が確認して会議の内容を共有している。また、婦人会や消防署、地域住民なども会議に参加してもらい、管理者は多角的な意見が聞けるよう検討している。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 地域包括支援センターの職員には運営推進会議に参加していただき地域包括ケアについて学ばせてもらったり、市と連携のもとキャラバン・メイトとして認知症サポーター養成講座の開催を実施、予防事業の構成委員として連絡会に参加している。また、運営やサービス提供において、わからない時は問い合わせを行ない助言をいただいている。</p> <p>(外部評価) 市担当者は運営推進会議に参加しているほか、普段から相談や連絡を取っている。地域包括支援センターが開催する勉強会にも、できる限り参加している。市の「高齢者一人ひとりが自分らしく、笑顔で過ごせるまち」づくりに協力し、認知症高齢者徘徊模擬訓練にも参加するなど相互の協力関係を築いている。また、月1回ふれあい相談員の訪問があり、利用者の話を傾聴している。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 開設当初より、身体拘束はしない方針であり研修や勉強会において理解を深めている。また、職員本位の対応が身体拘束なっていないか、あらゆる面で振り返り検討していく必要性を感じている。また、玄関は日中は開錠し、夕食後に施錠している。</p> <p>(外部評価) 身体拘束にあたる行為と弊害の研修を実施し、職員全員で理解して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関は昼間は開放し、落ち着きのない利用者には職員がさりげなく寄り添い、安心するまで見守りをしている。利用者に威圧感や嫌悪感を与えないよう日頃の声かけに気を配り、気になる場合は管理者がその都度職員に注意し言葉での拘束防止にも努めている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 外部研修を全職員が受けられるよう取り組んでいる。学んできたことは事業所での勉強会で報告し、職員間で意識統一を図っている。また、日々の業務の中では、職員がキツイ声かけや対応になっていないか振り返る事ができるよう取り組んでいる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在のところ制度を活用する事はないが、全職員が権利擁護や成年後見制度を理解できるように研修等に参加できる機会を設けていく。関係資料はいつでも閲覧できるようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居時には契約書や重要事項に添って説明を行ない、事業所のサービス内容・方針についての理解をいただいている。また、解約や改定の際にもその理由を十分に説明し不安や疑問等を聞き取り納得したうえでの手続きを進めるよう配慮している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 日常の連絡や面会時、ケアプランの説明、家族会を通して意見や要望を引き出せるよう努めている。直接伺う事のできない意見なども苦情処理箱の設置により収集できるようにしている。また、ご利用者さんにおいては、日頃の会話の中でも要望を伝えられるよう導き、月1回訪問してくださるふれあい相談員さんの意見も共有し運営に反映させている。 (外部評価) 家族の面会時には職員から声をかけ、意見や要望を言いやすいよう努めている。あまり面会に来られない家族には電話で細やかに近況を伝えるほか、年4回ホーム便りに利用者の写真を掲載して送付している。年2回家族会を開催し、事業所の報告や利用者の様子を伝えて、要望や相談に応じているほか、家族同士の情報交換や交流の場にもなっている。また、日々の生活の中で利用者の意見や要望を聞き、迅速に対応するようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 職員会においては、施設長も参加し決定事項の報告等があり、職員からの意見も汲み取って下さる。事業所内の会議においては、何でも話し合える場と設定し、様々な意見を引き出すようにしているが、積極的に意見を述べる職員もいれば、なかなか表現できない職員がいたり職員間で差がある。個別に話を聞いたり意見を出しやすい環境づくりをする必要がある。</p> <p>(外部評価) 月1回職員会を開催し、職員は管理者に意見や提案を伝え、反映できるように努めている。管理者は職員の声を大切に考えており、年2回個別面談を行い意見を聞くほか、日頃から職員の意見を言いやすいよう環境を整えている。職員は法人内研修や外部研修に参加しスキルアップや質の向上に努めている。また、職員は感染などのそれぞれの委員会に所属し、自覚と役割を持って業務にあたるよう取り組んでいる。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 法人では年2回の人事考課を実施し賞与に反映、意識向上に繋がるよう組織的に取り組む中、正規職員の登用があった。また、必要な資格取得を目指し、法人内でも試験対策講座を開いてバックアップを行っているが、負担を感じている職員もいるため、気持ちにゆとりを持って達成感を感じられるような職員への配慮が必要と感じている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 多種多様な研修に参加できるよう年間計画を立て取り組んでいる。勉強した内容は報告発表ができる機会を設け組織的に理解を深められるよう努めている。また、この度はキャリア段位制度を導入し、働きながらトレーニングできる仕組みを作りスキルアップに繋げる予定である。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 市内でグループホーム交流会を設立、3ヵ月に1回の開催にて勉強会や情報交換を行っている。また、定期的開催される東予地区研修会には全職員が参加できるように配慮し、他事業所との交流を深めながら、当事業所の取り組みに活かすよう努めている。</p>	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 事前面談では、実際にホームも見学していただき事業所の雰囲気を感じていただいている。また、ご本人・ご家族より生活状況をお聞きし、入居後も安心して生活が送れるような対応を心掛けている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご家族が困っている事や不安に対して十分傾聴し、安心して利用していただけるよう努めている。利用後もご利用者の心身の状態を報告し、他利用者との関係や職員との関わりを説明している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご本人やご家族の要望を聞き、どのような支援を求めているのか、また、背景にある問題を見極めながら様々なサービスの選択肢を一緒に考えるようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 面会時には現在の利用者さんの状態を報告し、事業所として協力して欲しい事はお願いし共に支援する関係をつくっている。また、行事等には参加を呼び掛け共に過ごせる時間を設けられるよう努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時には現在の状況を報告し、協力して欲しいことはお願いし共に利用者を支援している。また、行事等には呼びかけを行い参加して頂きながら、共に楽しく過ごせる時間をも設けられるように努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ご家族の協力の下、一緒に食事に出かけたり、姉妹宅を訪問、自宅に帰って近隣の人や親せきの人たちとの交流をする機会を設けているが一部の利用者のみで大半の利用者は実現には至っていない。 (外部評価) 利用開始前に利用者や家族から馴染みの場や関係を聞き把握している。利用者の希望に応じて、馴染みの美容室や自宅近くの高齢者サロンなどに出かけられるよう支援していたが、重度化に伴い外出が難しくなったり希望されなくなった利用者もいる。病院の受診時に知人や友人と出会い、会話を交わすこともある。また、同じ建物のケアハウスの利用者との交流があり、利用者同士の新しい馴染みの関係ができてきている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係を十分に把握し、共に過ごせる時間を大切にしている。時には、他利用者の意図しない言葉や態度に傷つき感情が不安定になる方も居られるので利用者の橋渡しになれるよう環境づくりにも気をつけ見守っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 併施設へと退所された方に関しては、可能な限り利用者と共に面会し、会える機会を設けその後の様子も伺っている。また、普段の会話の中に出てくる人物を記憶に留め関係性の復活はできなきかも検討している。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 月1回のケース会において、お一人おひとりの思いについて検討している。日々の生活や会話を大切にし、会話の中にも本人の思いが無いか意向の把握に努めている。また、思いをスムーズに語れない・困難を生ずる利用者においては、普段の生活の様子をヒントにしたりご家族の意見などを参考にし職員間で情報共有している。 (外部評価) 利用者や家族から生活習慣や思いを聞き記録に残し、職員は利用者の望む暮らしにできる限り近づけるよう取り組んでいる。日々の会話から利用者の思いを聞いたりくみ取る場合もあり、新たに得た情報は記録し職員全員で把握するよう心がけている。また、思いを伝えにくい利用者には、家族から情報を聞き利用者本位のサービスが提供できるよう検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時には、これまでの生活歴をお聞きし、入居後も日常の会話の中から得られた情報を共有し把握できるように努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 朝の申し送りや夕方の記録の時間において、利用者の状態や気づき・ケアに対する工夫などを伝達している。いつもと違う変化については、気づきノートに記録しひと目でわかるようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) まずは、利用者およびご家族の意向を聞き取り、職員全員の意見をすり合わせ計画を立案している。医療面においては、主治医の意見を参考にしながら介護計画を作成している。また、見直しの際にはご家族に確認をいただき要望・意見等をお聞きし反映させるよう努めている。モニタリングにおいては、毎月おこない次へと繋げている。</p> <p>(外部評価) 利用者ご家族の意向を反映して、職員全員の意見を参考にし計画作成担当者が介護計画を作成している。利用者一人ひとりの介護計画の具体的な支援内容を分かりやすくするため、常に目にする個人ファイルの裏表紙に計画を貼り、毎日の経過記録にも介護計画に基づいた支援ができているか、記録で確認することができるよう工夫している。また、毎月モニタリングを行い、状態の変化のある場合はその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 個人のファイルや申し送りノートにその日の様子や気づいた事を記録し共有している。個人のファイルには、観察項目を常に意識できるよう記載している。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) ご家族が病院受診ができない時は付き添ったり、ご家族だけでの外出が困難な場合は一緒に付き添い支援している。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 併設施設と共にではあるが、毎月地域ボランティアの受け入れを行い踊りや音楽などを楽しんでいる。また、2ヶ月に1回の理容師に散髪の協力をいただいている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 母体である医療機関は24時間受け入れ体制が可能であり、 ほとんどのご利用者が受診している。しかし、必要に応じて はこれまでの医療機関を継続し受診できる、また、ご本人ご 家族が希望される医療機関の医師の下で適切な医療を受けら れるよう支援している。受診の際には、できる限りご家族に も付き添っていただき要望等を伝えられるよう支援してい る。 (外部評価) 入居時に母体診療所や緊急時対応を利用者や家族に説明し、 希望を踏まえて話し合いかかりつけ医を決定している。職員 の受診介助や24時間体制で緊急時にも迅速に対応できるこ とから、母体診療所をかかりつけ医にしている利用者が多 い。専門医等への受診は家族の協力を得て受診している。受 診内容は把握し、家族に報告をするなど情報を共有してい る。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 毎日のバイタルチェックにより、ご利用者の健康状態を把握 し、異常がある時は併設施設の看護師に相談・指示を仰ぎ適 切な医療機関の受診へと繋げている。また、看護に関する助 言もいただいている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院の際には医療機関に情報提供を行い、面会に行くことで 病状の把握に努めている。また、ご家族との連絡を密に取り 、病状が安定すれば病院関係者と退院に向けての情報交 換・相談に努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居の際には、事業所の方針と指針について説明を行ない確 認をしている。ご利用者の病状やADLの低下に伴いご家族 の心境も複雑になる事を理解し、その都度の話し合いを持つ 機会を設けるようにしている。また、主治医や関係機関との 連携を図りながら支援している。 (外部評価) 入居時に事業所では看取り支援を行わない方針であることを 伝え、重度化や終末期には施設や病院等へ転院してもらうこ とを利用者と家族に説明し確認している。利用者の状態の変 化に応じて、その都度事業所として対応できる内容を家族に 伝え、話し合いをしている。職員は重度化や緊急時の対応な どの研修に参加し、サービスの向上に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変や事故発生時の対応においては、マニュアルを作成し全職員が周知している。消防署の「救命救急講座」を受講している職員もいるが全ての職員ではない。また、急変時の対応に関する研修に参加していても、いざという時の初期対応は十分ではないため、様々な場面での訓練の必要性を感じている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回併設施設と合同での避難訓練を行い連携体制を整えている。に加え、グループホームでも年2回、独自の避難訓練を実施し、全職員が順番で参加できるよう取り組んでいる。また、災害種別の訓練を想定し、訓練後は改善点について検討し防災意識を高めている。 (外部評価) 年2回併設の施設と合同で、夜間や地震時などの火災などを想定した避難訓練を実施している。地域の消防団員などに参加してもらい、地域と合同の訓練も実施している。災害発生時には併設施設の職員と協力し、確実に利用者が避難できるよう職員全員で取り組んでいる。地震による家具等の転倒防止のための固定を行い、非常用品や食料などの備蓄品も用意し、万が一の災害の発生に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) お一人おひとりの個性と人格を尊重し、思いやりのある対応を心掛けている。たとえ失敗や出来ないことがあっても利用者の目線に立ち考える事を忘れないようにしている。特にプライバシーに立ち入る時はマンツーマンの対応を行なうよう周知している。 (外部評価) 特に排泄や入浴の介助時などに、大きい声で他の利用者聞こえるような対応や声かけをしていないか職員同士で注意し合い確認している。居室の入口には暖簾を掛け、入口の戸を開いていても、利用者のプライバシーが守られるよう配慮している。利用者の誇りや尊厳を確保しながら、人格を尊重した対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常のいろいろな場面において、思いや要望を引き出せるような声掛けを心掛けている。言葉では上手く表現できない方においては表情や普段の行動から推測し判断している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 出来る限り利用者の方々とのペースに合わせるよう心掛けている。利用者の個々の思いをお聞きし希望に添えるよう努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 整容時は鏡を見ながらご自分で出来るよう支援している。髪型・爪切り・毛剃り・衣服の乱れには気をつけ、さりげなく直すよう配慮している。訪問理容師が来た時は、好みの髪型が維持できるよう協力を仰いでいる。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 調理・盛り付け・片付けなど食事に関する一連の流れを利用者さんの能力に応じてお手伝いしてもらっている。月1回の給食会議では、利用者さんの視点に立ち意見交換を行い利用者さんの思いが反映されるよう努めている。また、誕生会や特別な日には利用者さんが好む物を提供し楽しみが持てるよう配慮している。	
			(外部評価) 法人の栄養士が栄養バランスを考慮した献立を作成している。朝食と夕食は併設施設の厨房でおかず等を調理し、盛り付けを事業所で行っている。昼食は事業所のキッチンで職員が調理し、利用者は食事の準備や後片付けを手伝っている。毎月1日には赤飯を出し、利用者により分かるように工夫している。職員は利用者と同じテーブルを囲み、ゆっくり会話をしながら和やかに食事をしている。利用者のリクエストのメニューを取り入れたり、誕生日には好みの食事を調理したり、そうめん流しや餅つきをするなど、利用者が食事に楽しみが持てるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 1日の水分量をチェックシートに記入し確認を行っている。また、お一人おひとりに合わせた食事形態を心掛け、盛り付けを工夫したり、苦手な物に関しては代用品にて好む物を提供している。入浴後の水分確保にも努めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後に歯磨きの声掛けを行ない、出来る方はご自分で、出来ない方は介助を行っている。出来る方においても確認を怠らぬよう努めている。義歯消毒は勿論の事ハブラシやコップの消毒も行い清潔保持に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表にて個々の排泄パターンを把握、失敗の無いよう気をつけている。また、下着の上げ下げがスムーズに行えるよう尿取りの大きさや装着方法を考慮し自立支援に向け取り組んでいる。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、その日の状態を確認しながら、なるべく誘導してトイレで気持ち良く排泄できるよう支援している。状態に合わせて、夜間にポータブルトイレを使用している利用者もいる。オムツやパットに頼りすぎないように、昼間は布パンツを使用し、残存機能を活かした利用者に合わせて排泄支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 食事内容は野菜の多い献立となっており、水分摂取もこまめに行っている。牛乳・バナナはほぼ毎日摂っていただき、適度な体操と腹部の張り具合を確認し便秘予防に努めている。必要に応じて、主治医の指示のもと下剤の調整を行っている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 週3回の入浴を基本とし実施している。その日の体調や入浴を好まない利用者には声掛けのタイミングに留意している。また、お湯に浸かる時間や湯温も個々の意向に沿って支援している。	
			(外部評価) 週3回を基本として、利用者は入浴することができる。浴室の入口には構造上段差があるが、2人体制で介助をするなどの工夫をして補っている。利用者には湯船にゆっくり浸かってもらえるよう、状態に合わせて2人体制で安心安全に支援している。また、入浴を嫌がる利用者には、明るく声かけをして誘ったりタイミングを工夫したりするなど、リラックスして気持ち良く入浴できるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) お一人おひとりの生活ペースに応じて休息の時間を設けたり、心地よく眠れるように日中の活動に配慮している。夜間、寝付かれない方においては、時間の許す限り付き添ったり話を聞く事で安心して休めるよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬一覧表にて個々の服薬状況を把握している。また、薬の説明書にて副作用等を理解し、症状が改善しない場合はデータをとり再度医師に相談している。お薬を手渡す時は、薬の説明をおこない服用を確認している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ご利用者と共に家事をする中で、得意・不得意を把握し、お一人お一人に合った役割や楽しみが継続できるよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 個々の役割を兼ねての外出は日常的に行っており、敷地内にある六地藏参りもまた日課となっておりご利用者の楽しみの一つである。その他に、四季に応じて出かける場所も計画し、普段の会話の中からヒントを得て外出先を決める事もある。また、ご家族の要望・協力を得る事で外出支援を行っている。 (外部評価) 日曜日を外出支援の日と決め、利用者の希望に応じて、近くの産直市などに花や洋服を買いに行けるよう支援している。季節に応じて花見などに外出する場合は、併設施設のリフト車などを借り、車いすの利用者も一緒に出かけられるよう支援している。事業所周辺には広い駐車場があり、静かな環境でもあるため、日頃から外気浴して気分転換をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 病状的にご本人の管理が難しいため、基本的には事業所での預かりとしているが、買い物や受診の際の支払いは可能な限りご自分で支払いができるよう見守っている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 字の書ける方には暑中見舞いや年賀状をお送りしたり、要望に応じて電話の取次ぎもおこなっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 共に生活する中で空調や臭い、音・光などは調整をおこない不快を与えないよう配慮している。また、四季折々の飾り付けをして季節感を取り入れるよう工夫をしている。</p> <p>(外部評価) 太陽光が入る明るいリビングはオープンキッチンになっており、利用者が調理の様子や匂いを感じられるようになっている。ゆったりと利用者全員が座ることのできるソファが置かれているほか、廊下には数か所にイスが置かれ、利用者は思い思いの場所でくつろぐことができる。職員が手作りの掲示物には季節感を感じられ、利用者から好評である。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 皆さんで過ごせるフロア。ひとりになれる自室。気の合う者と過ごせる場所に椅子を配置し、精神的なバランスを保てるよう配慮している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 自宅で使用していた物を持ち込む利用者は少ないが、ご自分やご家族と一緒に撮った写真を飾らせていただき安心して生活が送れるよう環境づくりに努めている。</p> <p>(外部評価) 居室はベッドとタンスが備え付けてあり、廊下に利用者個人のクローゼットがあるため荷物の収納ができ、すっきりとした清潔感のある居室になっている。居室のベッドなどは、利用者の希望や状態に合わせて使いやすいよう配置している。居室の入口には利用者の目線に合わせて顔写真入りで名前を貼っており、利用者本人の居室が分かりやすいよう工夫をしている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 自室入り口・トイレなどには、表札や目印を付け解り易く、夜間の照明の明るさにも気をつけ混乱や失敗のないよう配慮している。 また、お一人おひとりの身体機能に合わせたベッドの配置を考え、出来るだけご自分で安全に動ける工夫をしている。</p>	